

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	活水女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カッスイジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	長崎県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	プレインターンシップ
	学部・研究科等名	国際文化学部日本文化学科
	担当教職員名・役職	八坂徳子：講師、村元宏行：准教授、小野澤泰子：講師
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	16
	受入企業等数	10
	受入企業等名	長崎県若者定着課、長崎県資源循環推進課、ホテルJALシティ長崎、株式会社チョープロ、株式会社リンク、株式会社コミュニティメディア、時津町役場、JA長崎せいひ、特定非営利活動法人長崎ウェルネススポーツ研究センター、活水女子大学図書館
インターンシップの分類	6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	業務への従事を基本として、会社・業界理解のための座学やグループワーク、課題解決ワークの中から、受入先の状況に応じて実施している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	日本文化学科地域ビジネスコース2年次を対象としている。専門教育科目・必修科目として、夏休み期間中に実施し、2単位を付与する。尚、この科目は、次年度に履修する「キャリアデザイン実習（長期インターンシップ）」に向けた事前学習としての位置づけを持つ。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容		
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	インターンシップ実施目的の理解、自己理解、業界理解、実習先の絞り込み、エントリーシート作成、選考会（マッチング）、自己紹介書の作成、実習先（企業・自治体）研究、目標設定、ビジネスマナー講座等を実施している。また、履修者全員と数回にわたって個別面談を実施し、実習の充実化に向けたサポートを行っている。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	活動の振り返り、学びの言語化（成果報告書・プレゼンテーション資料作成）、授業内発表会、受入先担当者を招いての成果発表会を実施している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	実習期間中に担当教員が実習先を訪問、又は電話にて、担当者に「学生の取り組み状況」等をヒアリングしている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細	アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。また、「職務遂行のための基本的能力及び職業観チェックリスト」の記入をインターンシップの実施前後で実施している。	

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	夏休み期間中の5日間
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	実習先とは訪問、電話、メール等で協議し、プログラム内容を設計。また、実習後にはヒアリングを行い、次年度の改善に向け取り組んでいる。インターンシップ中の評価については、実習先から「研修成果」「積極性」「理解度」「相談・報告」「研修態度」の5項目について、3段階の評価とコメントを記した「評価表」を提出していただいている。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.kwassui.ac.jp/university/	
問い合わせ先	大学等名	活水女子大学
	担当部署名	国際文化学部日本文化学科
	担当者役職名	講師
	担当者氏名	八坂徳子
	電話番号	095-822-4107
	メールアドレス	yasaka-n@kwassui.ac.jp